

2021年2月18日

各位

株式会社スプリックス

---

世界 11 ヶ国 22,000 人の子ども・保護者を対象に、基礎学力に関する調査を実施  
コロナ禍における日本の学校のデジタル活用は 11 ヶ国中最下位

---

株式会社スプリックス（本部：東京都豊島区／代表取締役社長：常石博之）が運営するスプリックス基礎学力研究所は、グローバルにおける日本の教育実態を把握すべく、世界 11 ヶ国において子ども・保護者を対象に学習に関する「意識調査」、および基礎学力を測る「学力調査」を実施いたしました。各国 1,000 名ずつ、合計 22,000 名の子ども・保護者へのリサーチ結果から得られたデータを全 4 回にわたり公表しています。さらに、スプリックス基礎学力研究所公式 Twitter (@SprixBasri)、公式 Facebook にて、一部の調査結果に加え、補足データや最新情報も併せて掲載しております。

第 3 回の調査では、日本の保護者は子どもの基礎学力のレベルを把握しておらず、学校のテスト結果への関心が世界と比較した際に極めて低いことが判明しました。最終回となる第 4 回目は、日本の学校ではオンラインやデジタルの活用が不足していることが明らかになるとともに、デジタル活用に対する保護者の意識も他国と比べて低いことが浮き彫りになりました。

#### ★第 4 回：調査結果ピックアップ

- ① コロナ禍における日本の学校の対応は 8 割以上が「紙教材による宿題の提示」で、11 カ国中最多  
「オンライン授業の実施」は 11 カ国中最下位、  
「授業動画の配信」「デジタルコンテンツの提供」は 10 位と他国に後れを取る
- ② 学習におけるデジタル活用不足は、学校だけでなく家庭でも同様の傾向  
約 9 割の日本の子どもの家庭学習方法は「紙と鉛筆」で 11 か国中 1 位に  
日本の保護者が、パソコンやタブレットで勉強すべきと考える割合は 3 割未満
- ③ 日本の子どもの約 5 割がデジタル活用によって勉強への意欲が向上  
さらに日本の子どもが勉強で活用したいアプリ 1 位は「苦手を克服してくれるアプリ」で  
一人ひとりの学力にあった教材を求める傾向に

#### ※調査概要

調査地域	以下の 11 ヶ国 日本・アメリカ・中国・インド・イギリス・フランス・ポーランド・タイ・ インドネシア・マレーシア・ミャンマー
調査対象	子ども：6 歳～15 歳（各国 1,000 名・11 ヶ国の 11,000 名） 保護者：上記子どもの保護者（各国 1,000 名・11 ヶ国の 11,000 名）
調査手法	インターネット調査
調査内容	「意識調査」：子ども、保護者を対象に実施した学習に関するアンケート 「学力調査」：子どもを対象に実施した 50 問の計算に関する基礎的なテスト
実施期間	2020 年 8 月～9 月

#### 本件に関する問い合わせ先

株式会社スプリックス

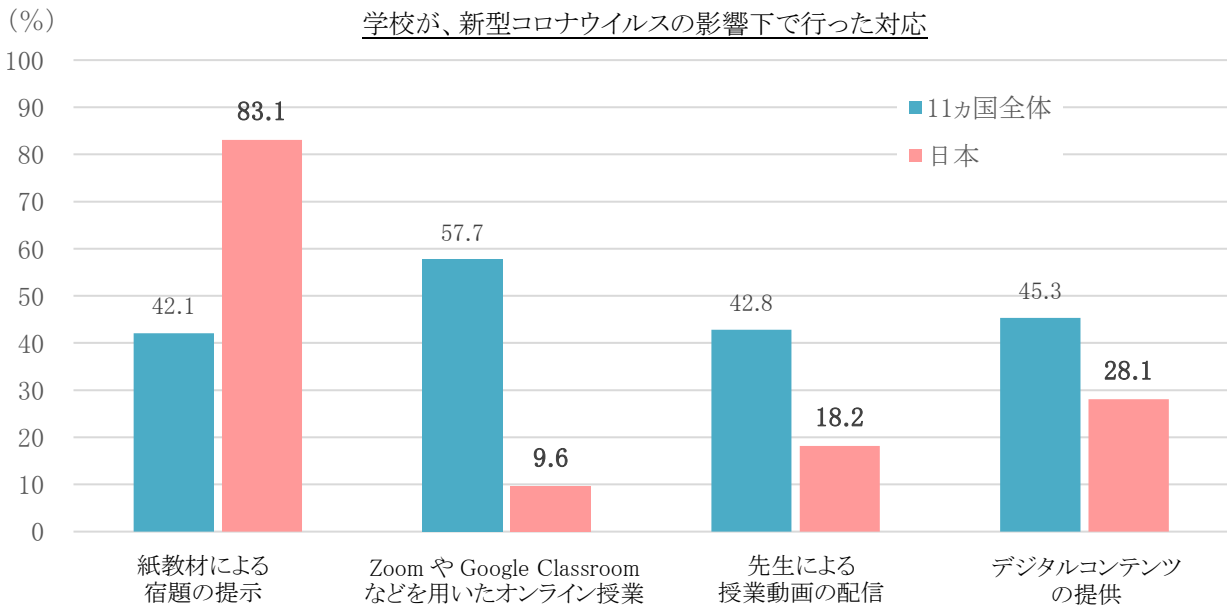
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-11-1 メトロポリタンプラザビル 12F

TEL：03-5927-1681 eMail：info@sprix.jp

① コロナ禍における日本の学校の対応は8割以上が「紙教材による宿題の提示」で、11カ国中最多「オンライン授業の実施」は11カ国中最下位、

「授業動画の配信」「デジタルコンテンツの提供」は10位と他国に後れを取る

コロナ禍における学校の対応について調査したところ、日本では「紙教材による宿題の提示」が8割以上と他国と比べて圧倒的に高く、11カ国中最多であることが判明。一方で、「オンライン授業の実施」は11カ国中最下位、「授業動画の配信」と「デジタルコンテンツの提供」では10位。日本は世界の中でも学校教育におけるオンラインやデジタルの活用が遅れていることが明らかとなった。

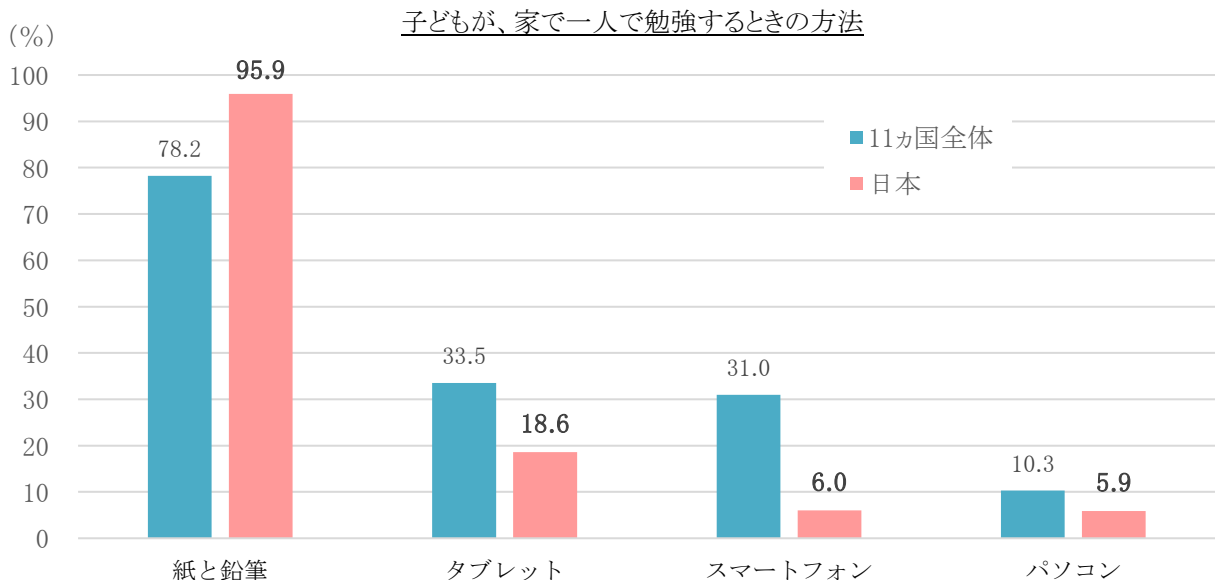


② 学習におけるデジタル活用不足は、学校だけでなく家庭でも同様の傾向

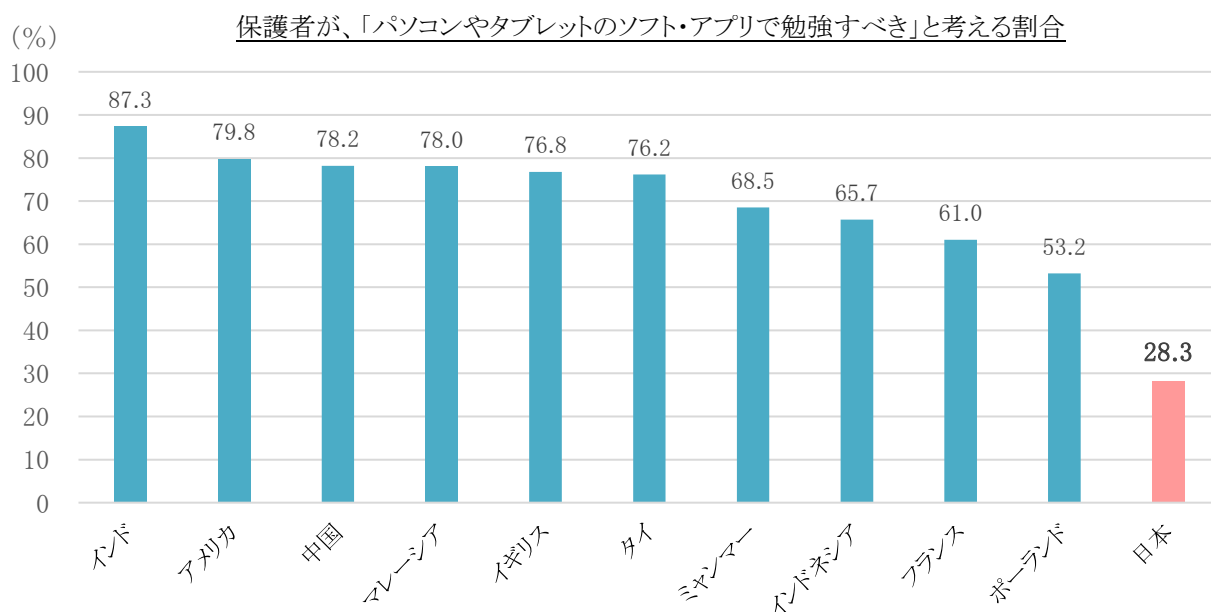
約9割の日本の子どもの家庭学習方法は「紙と鉛筆」で11カ国中1位に

日本の保護者が、パソコンやタブレットで勉強すべきと考える割合は3割未満

デジタル活用の遅れは学校だけではなく、家庭でも同様の傾向。家庭での学習方法について、日本では「紙と鉛筆」が9割以上と、11カ国中1位の結果。一方で、「スマホ」「タブレット」「パソコン」の活用はいずれも最下位となり、学校、家庭の双方においてデジタル活用で後れを取っていることが分かった。



また、日本の保護者のうち「パソコンやタブレットのソフト・アプリで勉強すべき」と回答したのは3割未満と11カ国中最下位。GIGAスクール構想などが進み、デジタル化に向けた取り組みが推進される一方で、保護者の意識には乖離が見受けられる。

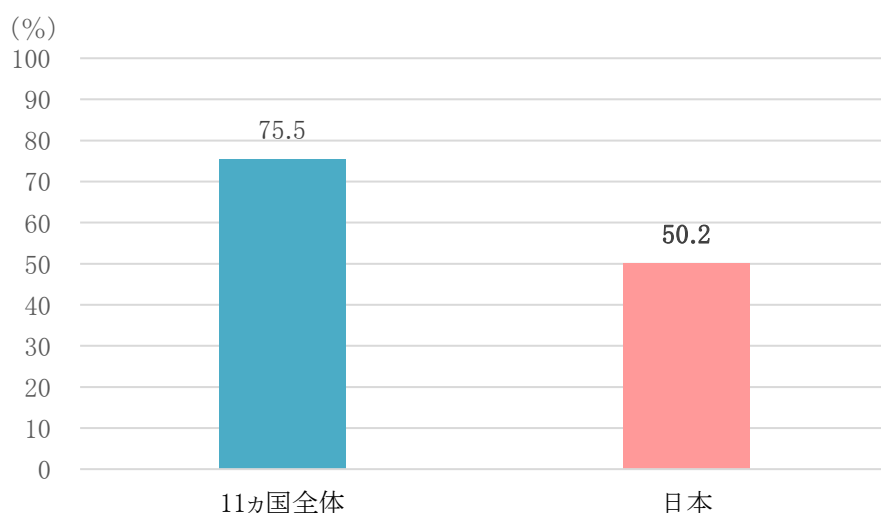


### ③ 日本の子どもの約5割がデジタル活用によって勉強への意欲が向上

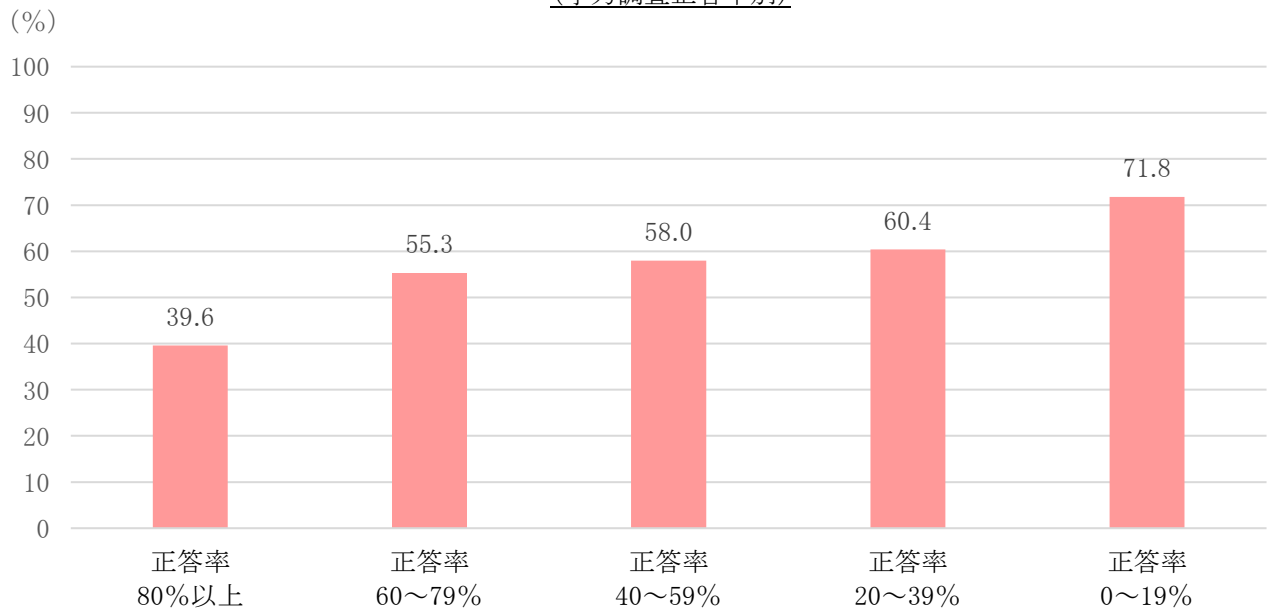
さらに日本の子どもが勉強で活用したいアプリ1位は「苦手を克服してくれるアプリ」で一人ひとりの学力にあった教材を求める傾向に

日本の子どもの約5割が、もっと勉強したくなる要素として「パソコンやタブレットのソフト・アプリでの勉強」と回答した。世界と比較すると低いものの、子どもの半数は新しい学びの方法に関心を示している。また、学力調査での正答率が低い日本の子どもほど、パソコンやタブレットのソフト・アプリで勉強するともっと勉強したくなる」と答えており、学習でのデジタル活用は勉強へのモチベーションをもたらす新しい要素になる可能性が示唆される。

子どもが、「パソコンやタブレットのソフト・アプリで勉強するともっと勉強したくなる」と考える割合



日本の子どもが、「パソコンやタブレットのソフト・アプリで勉強すると、もっと勉強したくなる」と考える割合  
(学力調査正答率別)



さらに、日本の子どもに対し、パソコンやタブレット、スマートフォンで勉強するならどんなアプリが良いかを聞いたところ、最多の回答は「苦手なところを教えてくれるアプリ」で6割近くに及んだ。11カ国全体の平均よりも高く、デジタルを活用することで効率的に苦手分野を克服したいとの考えが垣間見える結果となった。

子どもが、パソコンやタブレット、スマートフォンで勉強する際に  
「苦手なところを教えてくれるアプリ」が良いと考えている割合

